

市民活動サポートセンター いなぎ

# ニュースレター

## No.29

2009.12.15

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話 042-378-2112

FAX 042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

ハッピーリタイアメント講座⑧

## 地域があなたを待っている

～はじめの一步を踏み出してみませんか～

これから定年を迎える方、子育てが一段落した方、地域で何か役に立つ活動をしたい方々に、はじめの一步を踏み出す手がかりを提供します。

市内のいろいろな団体に加入し、活動している方も多数参加します。お誘い合わせの上、気楽にご参加ください。お待ちしております。

●日 時/平成22年1月23日(土)  
午後1時半～4時

●会 場/稲城市地域振興プラザ 4階

●参加費/無料

## プログラム

### 第1部 講演 「仲間と地域の発見・

#### 新しい自分を見つける」

講師 安藤雄太さん

東京ボランティア・市民活動センター副所長を退職後、全国各地で市民活動の施策推進や研修等でご活躍されております。

④NPO法人支えあう会みのり ⑤NPO法人ふれあい広場ポーポーの木  
⑥稲城国際交流の会 ⑦稲城市赤十字奉仕団 ⑧稲城市総合型地域スポーツクラブ(1クラブ) ⑨はつらつワーク ⑩社会福祉協議会ボランティアセンター ⑪文化センター ⑫市民活動サポートセンター

※各ブースで体験・相談などに応じます

### 第2部 居場所の紹介・・・リレートーク

①いなぎエコ・ミュージゼ ②ふたこぶらくだ ③語りの会「い3りばた」

### 第3部 活動を紹介する楽しい交流会

【共催】 NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ/稲城市社会福祉協議会/  
稲城市立公民館/稲城市協働推進課

【問合せ】 市民活動サポートセンター(市役所協働推進課内)  
電話 042-378-2112

# 市民活動フォーラムに参加して

11月21日に「いなぎ市民活動フォーラム2009」が稲城市地域振興プラザで行なわれました。テーマは“ずっと住みたい稲城をつくらう”・・・そこでどんなことが話し合わせ、また何を感じたかをレポートします。

## ●第1部 パネルディスカッション

ここでは市内で活動している4名の方が登壇し「ずっと住みたい稲城づくり」に向けての課題や夢を語り合いました。

★ ★

岡本寛さん（稲城ワイルダー代表）からは、親子がふれあいの森で雑木林を開墾し、農作物を栽培している経験を通して「子どもの同世代の交流」「親子も育つ活動」の大事さが語られました。特に活動してみても子どもだけでなく親も一緒に育つことがとても新鮮だったということでした。

中村達也さん（前いなぎ社会福祉士会会長）からは、福祉の相談やサービスは障がい者、高齢者、子どもといったように縦割りになっている。しかし、家庭の問題としてトータルに捉えないと解決できない場合が多い。そこで、総合的に相談できる窓口、しかもそれは行政だけに任せるのではなく、自治会や民生・児童委員、子育てグループなども含めた総合相談センターである必要があるという提案がなされました。

石田浩史さん（青年会議所理事長）からは、環境問題としてCO<sub>2</sub>削減がマスコミ等で盛んに取り上げられているが、どこか他所ごとのように思われがち、誰かに言われたからではなく、身近のところでのちよっと

した取組みが大事なのではないかという発言がありました。また、環境を考えることは人間関係づくり、すなわちお互いを見やる気持ちにも通じるのではないかといった話もありました。

島啓子さん（稲城市総合型地域スポーツクラブ会長）からは、この制度は国が提唱したもののだが、まず稲城に必要なかどうか、地域の課題をアンケートで掘り



起こすことから始めたとの話がありました。そこで分かったことは中高年者にとっては、生きがいや健康づくり、居場所づくり、子どもたちには体力低下の歯止め、そして何よりも大事なことはコミュニティの醸成につながるということでした。集い・つながり合うことで様々な可能性が見えてきたということでした。

★ ★

期せずして4人のパネラーに共通していたことは、豊かなコミュニティづくりこそが大事ということだったように思えます。人と人を紡ぐ仕組みを、あらゆる分野にわたって、しかも市民と行政が智恵を出し合って創り上げていくことが、“ずっ

と住みたい稲城をつくる”ための必要条件だということではないでしょうか。

## ●第2部 分科会

分科会はパネルディスカッションを受けての話し合いでした。

私が所属した環境分科会ではまず参加者が課題を出し合い、それらを解決する方法について、できるだけ具体的な事業を想定しながら話し合いました。

例えばこんなふうでした。

◆「大丸用水浴いが花いっぱいになったら素敵だね」「だったら、区間を区切ってモデル事業として進めてはどうだろう」「公共用地に適用しているアダプト制度を、モデル事業に限っては私有地にも適用するという方法もあるね」

◆「稲城は坂道が多くてお年よりはには大変」「だったら、ところどころにベンチを置いたら」「いいね。四国の遍路道のように接待までしちゃうとか」「なるほど、お接待・お節介ベンチか」「道路沿いの未利用地を市民がポケットパークとして整備してベンチを置くというのはどうだろう」

以上は一例ですが、こんなふうにまちづくりの夢を語り合うのはとても楽しいと感じました。市民と行政がお互いに持てる資源を出し合い、協力しながらその夢を実現していきたい。そんな思いを強くしたフォーラムでした。（小林）

十月

## 「ヘリコプタはどのようにして飛んでいるのか」

話し手：宮嶋 克行さん

便利で小回りのきく、ヘリコプタは災害時や緊急医療時などの交通や運搬手段として、現代社会には欠かすことの出来ない乗り物です。

東京都科学技術大学元教授の宮嶋さんに模型や、画像を取り入れて、わかり易く解説して頂きました。

内容は、どのようにして飛んでいるのか、どんな構造になっているか、どんな操縦をするのか、開発の目標その他の面から、詳細に話されとても興味深い内容でした。

しかし、なかなか難しく、操縦も構造も、飛行機以上に複雑なようです。

事故の発生件数は少ないとは言え、より安全で簡単な操縦の出来る国産機の開発を望みたいものです。

(石黒)

十一月

## 「大空町のまちづくりについて」

話し手：山下 英二さん

この日の話し手は稲城市と姉妹都市関係にある大空町の山下町長でした。1年前の約束を忘れずに、上京する日程にあわせ登壇していただきました。そんなわけで、これまで様々な形で大空町と交流している関係者も駆けつけ、参加者は70名を越え、これまでの最高記録でした。また、流暢で飽きさせないその話術に、あっという間の2時間でした。

大空町の最大のウリは観光と農業、中でもその風景の美しさは見事で、道内のカメラマンは異口同音に富良野や美瑛よりも上だと言うそうです。ただ札幌から日帰りで撮影に来られないために、取り上げられる機会が少なく、その良さが知られていないのだということでした。

稲城市内にオープンしているアンテナショップ“ほのか”については、売ること以上に大空町のPRの場、情報発信の場にしたい。そのためには稲城市民で協力してくれる方がぜひ必要と期待を寄せていました。これを機会に市民間交流がさらに進むといいですね。(小林)

## がんばってます

25



▲場を和ませるためのお遊び

この会の目的は、保育の場の提供ではなく、メインは母親のサポートだとか。核家族での子育ては、どうしても母親の負担が大きくなるので、ほんの少しの時間から離れて、同じ状況の人たちとの話し合いやちよつとした相談ごと、心配ごとを聞いてあげられる息抜きの場作りをしているとのことでした。最初は公民館の事業でしたが現在は独立しています。

### 子育て中の母親の息抜きの場づくり

## 子育てサポーターの会

代表：木戸 宏子さん

サポーターとして気をつけていることは、自分の経験を押し付けたくないこと。嬉しいことは、子どもたちの笑顔や目を見ると嫌なことが忘れられること。また、月に1度の活動は楽しいが、全体の運営、特に経済的な面が大変だということでした。

4人のサポーターさんたちは絶えず笑顔で、若いお母さんたち、お子さんたちに接しておられました。

10時半から11時半の開館の間、会場への出入りは自由なので、参加者も増えたり減ったり自由な空気が流れていました。

初めての子や、引つ込み思案な子も、最初は身構えたり入るのを躊躇する様子が見えましたが、母親と一緒に、開放的な空気を感ずるのか、すぐ溶け込んで近くのおもちゃに手を出し一人遊びを始めた、友だちに近づいたりしていました。

(佐藤)

○連絡先：042-377-4406 (第4文化センター)

# 今年の夢を語りましょう

## 金曜サロンスペシャル【特別編】

## 新年の集い

市民活動サポートセンターでは毎週金曜日に地域の人が出会える場として金曜サロンを開いています。

毎週第1金曜日には金曜サロンスペシャルを行っていますが、1月はその特別編として「新年の集い」と題し、軽食、飲み物を用意しての新年会を企画しています。

市民活動団体相互の新たな交流の場としてお気軽にご参加ください。きっと新たな出会いや発見が生まれ

ることでしょう。

- ◆日時：1月15日（金）  
午後6時～8時
- ◆会場：地域振興プラザ4F
- ◆定員：50名（先着順）
- ◆費用：2,000円
- ◆締切：12月25日（金）  
※電話で下記に申し込んでください。
- ◆申込み・問合せ先：  
市民活動サポートセンター  
（協働推進課内）  
☎378-2112

午後7時～9時

## 金曜サロンスペシャル

- 2月5日（金）  
・話し手：城所 <sup>なぶと</sup> 巨人さん  
（薬剤師・矢野口在勤）
- ・テーマ：「私が地域で  
目指していること」

地元で薬局を開業して三代目になる薬剤師の城所さんは、現在も消防団など地域に根ざした活動を続けています。

「くすり」については勿論のこと、若い世代として地域への関わり方などについて、お話ししていただきます。

## 編集後記

12月の金曜サロンスペシャルに、話し手として初めて登壇しましたが、いつもの司会とは勝手が違って、冷や汗ものでした。反面

人前で1時間以上にならなくて話をする機会は減多にないですから貴重体験でもありました。というわけで、話題提供のネタをお持ちの方、お気軽に話し手として登壇を！（小林）

## 理事会・総会

## ほうこく

10月19日……………理事会

### ◎議事

- ①監事の選任について
- ②第1回臨時総会について
- ③22年度事業計画について
- ④指定管理者制度について
- ⑤新規利用登録団体の承認について

### ◎報告事項

- ・21年度上半期仮決算について

## 「都政新報」の記事から

（10月30日付）

都教育庁は「乳幼児からの子どもの家庭教育支援」プロジェクトを進めています。その先導的事業が「家庭教育支援チーム」の設置ですが、昨年稲城市でもモデル事業としてチームづくりに取り組みました。そのことが写真も一緒に記事の中で取り上げられていました。

3ページで紹介した子育てサポーターの会は、そのプロジェクト検討委員会に関わった市民有志で立ち上げた会です。

NPO法人「市民活動サポートセンターいなぎ」の会員を募集しています・・・年会費3,000円